

ぴぴっと

ぴぴっと(PPT)とは...Paper(新聞) Practice(実践) theory(理論) Philanthropy(社会貢献)

NO.10 冬号

平成14年12月1日

発行

ぴぴっと(PPT)研究会

新聞の写真とお話して、 楽しかったよ!!!



11月16日(土)

於 生涯学習センター

「遊・YOU学園」

参加人数 小学生14名

こどもぴぴっとクラブ

小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、自然に表現力や国語力を身につけてもらおうという趣旨で、ぴぴっと研究会が主催している会です。



熱中しています

第5回子どもぴぴっとクラブ

開催のお知らせ

とき : 平成15年1月25日(土)

午前10時~12時

ところ : 生涯学習センター

「遊 YOU学園」

申し込み先 : FAXで

64-0758

今回で四回目をむかえる「子どもぴぴっとクラブ」。毎回欠かさずやってくる子、初めて参加した子、とさまざまですが、どの子もお話をよく聞いてどんなことをするのか面白い目をキラキラさせています。新聞の写真に話しかけてみよう!と投げかけると、写真の中の人物や動物、はては機械にまで思い思いの言葉で話しかける子どもたち。その発想の自由さには脱帽です。新聞には全国紙と地方紙があることを勉強した後、新聞の中に出てくる



お母さんといっしょ

県名を探して白地図に書き込んでいくゲームをしました。たくさんのお名前を覚えたことでした。東京の記事が一番多いという発見もしていました。

参加したお母さんの感想 (北小3年生の男児)

今回、初めて子どもと一緒に参加しました。行く前はうちの子もついていけるかしら、知らない子達の中で大丈夫だろうか、親子ともども不安でしたが、すぐによそのお兄ちゃんたちと仲良くなり、とても楽しそうに活動しているのを見て安心しました。

新聞の写真に話しかけるところでは、いろいろ迷っていたようですが、ちょっと声をかけてあげたら安心したみたいで、親子で参加するのもいいなあと思いました。*翌日の新聞に「子どもぴぴっとクラブ」のことが載っていて、記事の中に自分のことが書かれていたのとても喜んでいました。次回はどんなことをするのか楽しみにしています。



こんなのができました!

子どもの心を耕す読書のすすめ

読書が好きになるか嫌いになるかの大事な時期が、この時期のように思われます。子どもが本に興味を持つ時期は決まっていますが、この時期に読書に関するよい刺激(環境)を与えることで、読書の楽しさが理解できるようになると思います。

低学年から中学年へ

読書が好きになる本の選び方 3

1. 活字が小さく文章量の多い読み物

絵本や幼年童話に親しんだ子どもたちは、自然に活字の多い本を読むようになり読書量も増えてきます。

この時期は、子どもたちの生活をリアルに生き生きと描いた作品が子どもたちをとりこにします。

<登場人物の行動に親近感を持てる本>

「チョコレート戦争」「それいけズッコケ三人組」

<ユーモアのある内容の本>

「吉四六さんと庄屋さん」「一休さん」

2. 伝記やシリーズものを読んで読書量が増える

伝記を好んで読む傾向が見られるのもこの時期です。何冊も伝記を読むことで読書量も増えることになります。

また、伝記だけでなく気に入った本のシリーズをどんどん読んでいく傾向もありますし、本の好みも男女で違いがでてくるのもこの時期だと思えます。

親も子どもの読んでいる本を読んでみて、本についての感想を話し合ってみるのも、子どもを読書に導くよい刺激となると思います。

親が、子どもの頃に読んだ本を子どもたちに紹介してあげましょう。

味あらかるとアラカルト

平成十四(二〇〇二)年十一月十四日、中央教育審議会は「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」中間報告を遠山敦子文部科学相に提出した。十五日付各紙は一斉に中間報告を論じた。

朝日新聞——教育基本法見直しの方向性示す、「国を愛する心」盛る、「理念もてあそぶ暇はない(社説)」 岩手日報——教育基本法の全面改正を提言、公共、愛国心を重視、「家庭の責任」を規定、「なし崩しの理念転換、子どもの現実に迫らず(核心評論)」 毎日新聞——教育基本法 中教審報告こそ見直しを……読売新聞——教育基本法 改正を『再生』への一歩としたい…… 日経新聞——『日本再生』へ向けた教育基本法見直し……等々、中間報告全文と新聞とを読み比べながら進むとかなり勉強になる。

二十一世紀の教育が目指すもの——これからの教育目標——④新しい「公共」を創造し、二十一世紀の国家・社会の形成に主体的に参画する日本人の育成では「国民はより良い国づくりの地域づくりのために主体的、積極的に参画することを求められている存在である。新しい『公共』とでもいうべき観点に立って、ボランティア活動……」当研究会も議論を深めたいところである。

高校生の保育体験の感想は？

沢内村せんだん保育所

佐藤 りき子



金沢伏見高校の生徒さんと一緒に

8月と10月、金沢の伏見高校と地元西和賀高校の生徒のみなさんと一緒に、くり拾いと草花を使っての冠づくりをしました。子どもたちは、お姉さんたちと一緒に作ったお気に入りの冠をかぶって記念写真を撮りました。高校生のみなさんは、保育体験を通してどんなことを感じたのでしょうか。

西和賀高校の生徒さんからの感想を紹介します。

- * ひとり一人がすごく活発な面もあれば、静かな面もあって、とても楽しかった。保育所に入っている年代は素直だと思いました。自分もこんな感じだったとふりかえることができました。久しぶりに工作などもして楽しかった。(男子)
- * 保育体験の感想は楽しかったけど疲れた。最初は「なじめるかな？」と思っていたけど、近づいて話してみたら、会話とまではいかなかったけど話ではできた。みんながついてきてくれたような気がしてうれしかった。一番小さなクラス(0歳～3歳未満)を手伝わせてもらって大変だったのは、トイレを手伝わなければならないことでした。トイレは時間が決まっているみたいで、一斉にトイレに向かわせます。ご飯も年齢ごとに少しちがっていた。1歳の子どもたちのおかずは、食べやすいように小さめにしていたし、箸ではなくスプーン二つだった。一つは自分で食べるもの、もう一つは私たち(保育士)が食べさせるためのものでした。(女子)
- * 子どもはいいなあと思った。子どもは子どもなりの考え方があるんだなあ、けんかを見て分かった。(男子)

さんやそう 3

鉢で育てた山野草を愛でるのがいいが、自然の中で観る山野草は格別である。カメラ趣味の人には堪えられない喜びであろう。

昨年6月みちばたの少し湿地があった場所でサワランに会うことができた。湿地は山野草の宝庫である。今ではすっかり園芸種になったサギソウ、さらにトンボソウ、ギボウシ、サワギキョウ、ウメバチソウ、カキランと数え切れないほどで、その中でもサワランはその鮮やかなピンクは誰の目にもとまるすばらしさだ。

さて、この6月その日を心待ちに行ってみてがっかり。むざんにも掘られたあとだけ残っていた。あまりの素晴らしさに掘って持っていく気持ちもわかるが、所詮どんなに大切に育てようが、いずれは失敗するだろうと思うと残念でならない。(沢内村 大石 信夫氏 提供)



サワラン

夢だった「ぴぴっと」10号

平成12年4月24日「ぴぴっと」(PPT)研究会結成、同年7月31日会報「ぴぴっと」創刊号を2ページ構成で発行した。その後、第4号から4ページ、第8号から6ページ、そして夢だった第10号8ページと着実に前進してきた。各界の代表から心のコもった励ましのお言葉をいただいた。

継続は宝なり

北上市立公民館連絡協議会 会長 高橋 英夫さん



今年の11月2日読売新聞の記事で、80年以降、毎年秋の「読書週間」を前に世論調査を実施、その結果、1ヶ月間に本を読まなかった人は、80年代はおおむね3割台なのが、今年の調査では54%と5割を超えた。「心の教育」、「美しい心」、「よい言葉」、「正しい文字」を育てるには活字に親しむスクラップの活動や読書の役割は大きい。「ぴぴっと研究会」に期待することは大きい。子供の本離れは深刻と識者は言う。

黒沢尻西小学校で、小笠原味佐枝先生の指導で昭和53年3月、朝日小学生新聞・朝日新聞社主催、第7回全国学校新聞コンクールで文部大臣奨励賞受賞の感動は忘れない。継続は宝なり。(北上市立黒沢尻北公民館長)

ぴぴっとの夢に向かって

北上地区新聞教育研究協議会 会長 佐々木征子さん



季刊「ぴぴっと」が早や10号を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

ぴぴっと研究会の会長さんはじめ会員の皆様方には、日頃より当研究協議会のためにご指導ご支援をいただき、誠にありがとうございます。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

明るいニュースが少ない昨今、「ぴぴっと」は私達に希望と行動する勇気を与えてくれています。読みやすく、ピッと感じて、サッと行動に移せそうな内容が満載。紙面もしだいに拡大されてきていることは活動も充実し拡大していることを物語っています。

「新聞の理論と実践を研究しながら社会貢献をしよう」という夢の実現に向けて、日々歩んでおられることに敬意を表すると共に、今後ますますの充実・発展をお祈り申し上げます。(北上市立黒沢尻東小学校長)



ジャーナルの重要性学ぶ

北上国際交流チーフアドバイザー 薄衣景子さん



英和辞典の journal をひくと初めに日誌が出てくるが、広辞苑でカタカナのジャーナルは日刊新聞とか定期刊行物になる。先日北上で「ペアレント・プロジェクト」が開かれ、そのワークショップの中で、journal（日誌）をつける重要性を学んだ。その手法の中では、紙に書かれた感想にプラス思考でコメントを書くことによって互いに共有でき、新しいアイデアが生まれ、一人では考えつかないことでも、実現可能な距離になり、さらに具体的に視野に入る。色々なところで応用でき、そこが dairy（日記）との違いと思った。

イメージに合った活動を

「二丁目公園だより」編集長 外山輝彦さん



ぴぴっと研究会を知ったのはつい最近で「二丁目公園だより」を発行するようになってからです。

“ぴぴっと”から連想することは“てきぱき”とか“しゃきしゃき”を連想します。本来の語源とは違うかもしれませんが、これからもこのイメージに合うような活動をしていただきたいと思います。

市民が出来ることは市民の力で

いわて NPO-NET サポート 代表理事 高橋敏彦さん



「ぴぴと」第10号発行おめでとうございます。小笠原さんにはいわて NPO-NET サポート理事として、公園づくりグラウンドワークはじめ、様々な活動で大変お世話になっております。

私たちの団体は NPO を支援する NPO として活動を始めてから早や3年になります。裏方、縁の下、黒子の活動がほとんどですので、市民の皆さんには何をやっているのかがあまり見えないかもしれません。一言でいえば「市民が出来ることは、市民が力を合わせてやりましょう」そんな考えの市民をどんどん増やすことが私たちの仕事かなと思っています。お陰様で、そんな思いの仲間が徐々につながって、北上地域だけでなく、岩手県内広くゆるやかなネットワークが出来てきたようです。

行政の皆さんにも私たちの活動を少しずつ理解していただいているのではないかと考えております。

私たち一人一人はそれほど大きなパワーをもっているわけではありませんが、もっともつながることで、少しは社会の役に立つかなと思いつながら、楽しく活動してまいりますのでこれからもよろしくお願いします。



Q: 写真を掲載する場合に注意することは何ですか？

(北上市 中学校PTA広報委員)

写真の役割

普段みる新聞をはじめ市町村の広報誌やPTA新聞には、必ず写真が掲載されています。文章だけでは伝えきれない生きた場面や表情など、写真の持つ特性を生かすことで、その記事が一段と深みのあるものになります。また、写真そのものがニュース的要素の高いものであることから、掲載する場合にはいくつかの留意点があるように思います。

写真掲載の注意点

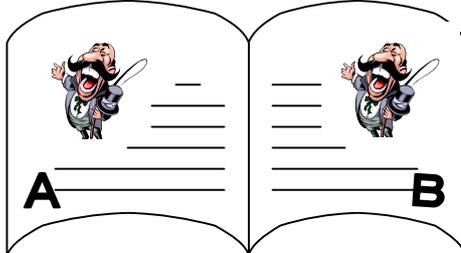
1 記事の内容に合った写真を用いること

(避けたい例) 学習発表会の記事で、文章では子どもたちの活躍を書いているのに、子供たちの写真よりも校長先生の挨拶写真が主になってしまった場合。

2 写真にはコメントをつけるようにすること

文章中で写真の解説をしている場合は必ずしもつけなくともよい。

3 人物写真の場合には顔の向き等も考えて載せること



人物の顔写真を載せる場合、Aのようにページの外側を向くのではなく、Bのように内側を向くように配置した方がよい。

4 同一号上でおなじ写真は使わないこと

違うアングルであっても、同じ人物や同じ場面が何度も出てくるのは、あまり好ましくない。

静電気を避けるには...

寒くなって空気が乾燥してくるこの時期、車やドアなどに触れると「バチッ」とくる静電気。いやですね。あらかじめハンドクリームをぬっておくのもよいそうです。おためしてください。

ぴい~たいは

ちょっと

ひと休み

知ってます？

こんなこと



田付 京子さん



新聞をとおしての楽しみ

メリットの多い「まうすりい」の世界

月1回の「まうすりい」の参加も、もう20回を超えた。夫がスクラップをやっていたこともあり、関心事ではあったが、色々な意味で得るものが多いと感じている。

(1) 構成メンバーは若い主婦と中高年が半々、やはりそれぞれの観点・視点が異なり、同じ記事についての論点等も違ってくるので、ディスカッションも厚みがありおもしろい。新聞はテレビやラジオに比べ、活字を通して知ることによってニュースの印象が深くなり、年代によって記事の捉え方が大きく異なるのも意味のあることで、毎日、新聞から目が離せない昨今である。

(2) スクラップについてもよく話題にできるが、その有効性・楽しみ方・テーマの選び方等については、会員のみなさんと共に進めたい課題であり期待されるところでもある。

(3) ある時、若い会員から「新聞を作っている親戚がいる。」という話が出た。親子の語りを中心に写真なども取り入れたファミリー新聞。久しぶりに夢のあるさわやかな世界を垣間見た思いであった。

(4) 最後のメリットは、会が終わった後の会員数人との軽食をとりながらの新聞談義であり、毎回趣のある店舗を訪ね歩くことは、「まうすりい」の大きな楽しみとなっている。

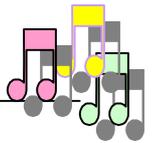
新聞を読んで今を語る会（通称：まうすりい）は、複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、お互い刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。

ぴぴっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成14年11月現在20回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。

参加希望者はどなたでも大歓迎！！

がんばったね



十月、東北大会へ行った娘から「おかーさん全国大会だよ。幕張メッセに行けるんだよ。」と興奮した電話。「練習の成果だよな。よかった、よかったね。」と言って電話を切る。これは、応援に行くしかないでしょ。というところで、私は母・息子を連れて十一月二十三日、一泊二日で千葉・幕張で行われるマーチング全国大会へ応援に行くこととなった。

新幹線は母・息子とも初めて緊張した様子。が、息子は乗るとすぐに漫画本を読みはじめた。もっ少し感動してほしいと思ったのは私だけ？

上野駅で、まず、「エスカレーターに乗るときは左端に寄ること。二人並んで乗らないこと。」と教える。上野動物園でパンダの背中を見て、国立科学博物館で恐竜の親子の化石を見た。やはり国立の博物館は迫力があるなーと感激！東京タワーで夜景を見てからホテル

でマック。

翌日、せっかくなら正面の席で応援したいと、朝食後、早めに幕張へ向かう。車中、シンデレラ城を横目で見ながら、幕張メッセに十時ごろ着くが、もう百人以上の人が並んでいる。二時間半後イベントホールの中に。

出場団体全員が参加しての開会式・全員で演奏する雷神。迫力のある演奏・楽しい演出をしながらの演奏……。いよいよ娘の学校が。思わず手に力が入る。転びませんようにと願う。

結果は、優良賞。今までよくがんばったと思う。

また、来年に向けて練習大変だけど、悔いのないようにしてほしい。お母さんもできることは協力するよ。

とにかく東京は人が多い。どこからか湧いているよう。

(H)



このコーナーは、会員が、最近感じたこと・出来事など、交代で担当します。

新聞まめちしき

その10

新聞広告

日清・日露の両戦は、戦況を知ろうという購読者の激増で、新聞の発行部数を大幅に伸ばした。このため新聞の媒体価値も高まり、大型広告や案内広告なども掲載され、広告収入が新聞社の盛衰興敗を決するとまで言われるようになった。

単に活字の大きさに大小をつけるだけでなく、丸・三角・化粧品のびん形や、わざとめだたせるよう横向きや、さかさまのスペースを提供するなどかなり思い切った紙面構成をやってのけた。明治二十三年には、「報知新聞」が色刷り輪転機を購入、のちに広告面にも色刷りを採用し、広告主をよろこばせた。

編集後記

師走に入り、今年も残り少なくなりました。会報「びびっと」は、10号を記念し、特集を組んでみました。お忙しい中、原稿をお寄せくださった方々に心よりお礼申し上げます。

20号記念を出すころにはどんなふうになっているでしょう。

ご意見・ご感想をお待ちしております。

びびっと研究会

〒024-0012

岩手県北上市常盤台1-14-12

TEL・Fax：0197-64-0758

E-mail：agi@titan.ocn.ne.jp